

〔論文〕

## ドイツ地方都市に見る「都市の蓄積」の共有活用

—11万人都市・エアランゲン市を中心に考察—

高松平藏

ドイツ在住ジャーナリスト

### 要 旨

欧州都市が目指すのは市民的価値をベースに置いた質的な魅力で、「公共性」への投資が鍵になる。こうした欧州都市を地域の蓄積（ストック）された資源（空間・時間・人間（人材）等）を分かち合う（シェアリング）として読み直す。具体的にはドイツの11万人の地方都市エアランゲン市を研究対象にし、1. 時間的資源「自治体アーカイブ」、2. 公共空間の書架「オープンライブラリー」、3. 空間・時間的資源「中心市街地」、4. 個人のリソース「ボランティア」のシェアリングを見るとである。空間・時間ストック（資源）については信頼性・ケアが重要なカギになっている。そこには人々の間に共通善といった価値観の理解が必要だ。また、人的リソースの活用とは、具体的にはボランティアをさすが、ボランティアのプラットフォームが豊富であること、個人の自由時間を確保し易いことがカギだ。

**キーワード：**ストック・シェアリング、アーカイブ、オープンライブラリー、市街中心地、ボランティア

## How are “resources” in local cities in Germany being shared and utilized?

A study focusing on Erlangen, a city with a population of 110,000.

Heizo TAKAMATSU

Journalist (German-Based)

---

\*本稿は名古屋学院大学の事業「ストック・シェアリングを通じた地域価値の編集による新世代型コミュニティの実現に向けた多層的研究」の成果の一部である。 発行日 2023年10月31日

## 1 はじめに

### 1-1 問題の所在

都市の魅力とは、人々の主観的なものだが、それにもかかわらず、欧州では比較的明確だ。例えば2020年11月30日にEU加盟国の都市開発・領土結合担当大臣らによって採択された「新ライプツィヒ憲章 (Die Neue Leipzig-Charta)」は現代の都市開発政策の原則を示しているが、その大枠は共通善<sup>1)</sup>の強化だ。社会的、経済的、生態学的レベルでの不利益を軽減すること、それに加えて信頼性の高い公共サービスが含まれている。これによって生活の質を維持と向上を目指すことが目的である。魅力ある「都市の質」とは、次のような整理ができるだろう。

1. 生活の質を支える環境：汚染されていないきれいな空気や水、安全性、医療、教育、文化。これらの充実によって、市民全体の生活の質を高めることにつながる。
2. 環境と持続可能性：森や緑地などの自然保護、エネルギー効率、CO2排出削減、ゴミの分類・リサイクルなど、持続可能性につながる取り組みが行われていること。これらもまた人々の生活の質にも関わる。
3. 経済的活力：雇用と繁栄のための企業活動が十分にあること。
4. インフラストラクチャー：上下水道、エネルギー、道路、公共交通機関、交通ネットワークなどの基本的なインフラストラクチャーの整備。
5. 文化的多様性：芸術、音楽、演劇、イベント、フェスティバルなどの豊富な文化シーンが都市らしさを生み出し、都市の生活を豊かにする。さらには、さまざまな背景を持つ人々を結びつけることができる。
6. 建築と都市景観：都市デザインと建築物、特に歴史的建築物の保全と活用は都市のアイデンティティやその特徴を生み出す。
7. 社会的共存：都市の一体感とコミュニティを育むには、「知り合うきっかけ」が豊富で活気に満ちたコミュニティと社会的交流が重要。

このような条件の整備には、一般に公共性への投資が鍵だ。本稿ではこうした欧州・ドイツの都市の取り組みを「ストック・シェアリング」という概念で読み直すことを試みる。こうすることで、欧州の特殊性を強調せず、都市づくりにおける議論を重ねていく上で、新たな問いをどのように立てるべきかを検討できるだろう。

### 1-2 これまでの研究

都市の質は立地、管理部門、権力構造など、数多くの要素の組み合わせで決まってくる。「都市の質」

---

1) 共通善はギリシャ時代に始まる議論があるが、例えばバイエルン州の憲法 (Verfassung des Freistaates Bayern Art. 151) によると、人間の尊厳を伴った、すべての人々生存を保証すること、すべての人々の生活水準の段階的向上ということを示している。

そのものをテーマにした研究は見当たりにくいが、都市文化、都市史、都市経済学、都市計画、都市開発、都市地理学などさまざまな分野から、都市のあり方を検討する研究の蓄積はある。とりわけ確認しておきたいのが、都市史のユルゲン・ロイレッケの議論だ。ドイツでの都市の発展について、都市化／都市社会化（Verstädterung/Urbanisierung）の2つの概念が出されている。前者が人口増加などの量的な発展を示し、後者が人々の生活や行動の様式などの質的なものを示す<sup>2)</sup>。

それとともに、筆者は都市の質という視点から人口約11万人のドイツ・エアランゲン市を中心に都市内の要素がどのような連関性を作り、発展させているのかに着目した著書を2冊上梓している<sup>3)</sup>。

一方、ストック・シェアリングとは、名古屋学院大学の「ストック・シェアリングを通じた地域価値の編集による新世代型コミュニティの実現に向けた多層的研究」（2018年度）によって提示された概念である。地域の蓄積（ストック）された資源（空間・時間・人間（人材）等）を分かち合う（シェアリング）こととしている。福祉・都市・経済を地域で融合し、各種のストックをシェアすることで地域の課題解決と新しい価値の創出を図るという野心的な研究である<sup>4)</sup>。

この概念は「シェアリング・エコノミー」から着想を得たものと思われる。日本の総務省によると、シェアリング・エコノミーとは、〈典型的には個人が保有する遊休資産（スキルのような無形のものも含む）の貸出しを仲介するサービスであり、貸主は遊休資産の活用による収入、借主は所有することなく利用できるというメリットがある〉ものだ<sup>5)</sup>。その始まりは2008年開始のパケーションレンタルAirbnb（エアビーアンドビー・本社サンフランシスコ）、空き部屋を貸したい人（ホスト）と、借りたい人（ゲスト）の両者を仲介するWebサービスである。さらに配車サービスの「Uber」などさまざまな分野に広がりを持つものである。

シェアリング・エコノミーの登場は21世紀に入って、ネット技術の発達によってマッチングが容易に実現したことにある。レイチェル・ボッツマンらによると「分かち合うこと」で、〈テクノロジーが、古い形の「信頼」を新しい形に変えている〉ものであり、人々のコミュニティへの回帰を主張している<sup>6)</sup>。

この議論は「シェアリング」に伴う社会的意義を強調するもので、本稿を進める上でも重要な指摘だ。一方シェアリング・エコノミーは共同消費であり、「分かち合い」の商業化であるという指摘もある。従来の「分かち合い」が無料で行われた近隣同士の支援という社会的意義があるが、それが後退しているというものである<sup>7)</sup>。

- 
- 2) 例えばReulecke, J. (2005). *Geschichte der Urbanisierung in Deutschland*. Frankfurt am Main: Suhrkamp.
  - 3) 「ドイツの地方都市はなぜ元気なのか—小さな街の輝くクオリティ」（2008）、「ドイツの地方都市はなぜクリエイティブなのか：質を高めるメカニズム」（2016）、ともに学芸出版。
  - 4) 名古屋学院大学 平成30年度私立大学研究ブランディング事業計画書より [https://www.mext.go.jp/content/1414148\\_12.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1414148_12.pdf)（2023年7月24日閲覧）
  - 5) <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/html/nc242110.html>（2023年7月24日閲覧）
  - 6) ボッツマン, レ., & ロジャース, ル. (2010). *シェア〈共有〉からビジネスを生み出す新戦略*. NHK出版. Kindle位置No.149/5795
  - 7) Gründer Platform. (n.d.). Sharing Economy Benutzen statt Besitzen – eine Wirtschaft des Teilens. From

いずれにせよシェアリング（分かち合う）は社会的な意味合いが強く、そこに都市の質の関連性がある。

### 1-3 研究の目的

「分かち合う」こと自体は決して新しいものではなく、人間の原初的な行為だ。ただ、その原理は国・地域・時代によって異なる。例えば、近代以降の欧州を見ると、協同組合に始まり、連帯経済・社会的経済といった原理に基づいたものがある。これらの原理は自助、連帯、個人主義などの欧州で発達してきた概念の関連の中で成り立ってきたという具合である。他方、ドイツの都市作りには、公共空間への投資をするほど、市民の生活の質の底上げにつながるという発想が見て取れる。換言すれば投資によってできた好環境を市民で「分かち合う」という構造になっているともいえるだろう。

本稿はストック・シェアリングが新たな「分かち合い」として、どのように機能しているのかを明らかにしていくことが目的だ。

### 1-4 研究の方法

筆者が住むエアランゲン市の事象を整理し、「ストック・シェアリング」として整理・分析する。

### 1-5 研究対象の範囲

#### 1-5-1 研究フィールドのエアランゲン市について

中心になる研究フィールドはエアランゲン市である。選定の理由は筆者が同市にて参与観察を行い、ジャーナリストとしてマイクロ取材を長年重ねてきたことによる。そのため、同市の常態を知り得ている。

フィールドになるエアランゲン市の概要を記しておく。同市はバイエルン州の中央フランケンという行政管区に位置する郡独立都市<sup>8)</sup>。1002年にはじめて文書で登場し、17世紀にフランスからユグノー派の宗教難民を引き受ける。現在の旧市街地はこの時期の都市計画でつくられた（バロック様式）。エアランゲン大学があり、シーメンスの医療健康分野の開発拠点でもある。そのため観光地というよりも学術研究都市といった雰囲気が漂う都市である。経済力もあり、一人当たりのGDPもドイツ国内の自治体でトップクラス（4位/2018年）。



図1 エアランゲン市

Gründer Platform: <https://gruenderplattform.de/green-economy/sharing-economy> (2023年7月24日閲覧)

8) 基礎自治体は郡に属するが、郡から独立した基礎自治体を「郡独立都市」という。

面積	76.96km <sup>2</sup>
人口	116,562人（2022年12月31日現在）
人口密度	1,472人（1平方キロメートルあたり）
市長	フロリアン・ヤニック（2014年から 所属政党：SPD）

本稿では次の4点をストック・シェアリングの事例として検討する。

1. 市営アーカイブ
2. オープンライブラリー
3. 中心市街地
4. 人的資源

いずれも市内に「ある」ものである。また同市はフィールドとしてそれほど広い自治体ではなく、むしろコンパクトだ。その距離感下記地図からも、ある程度理解できるだろう。

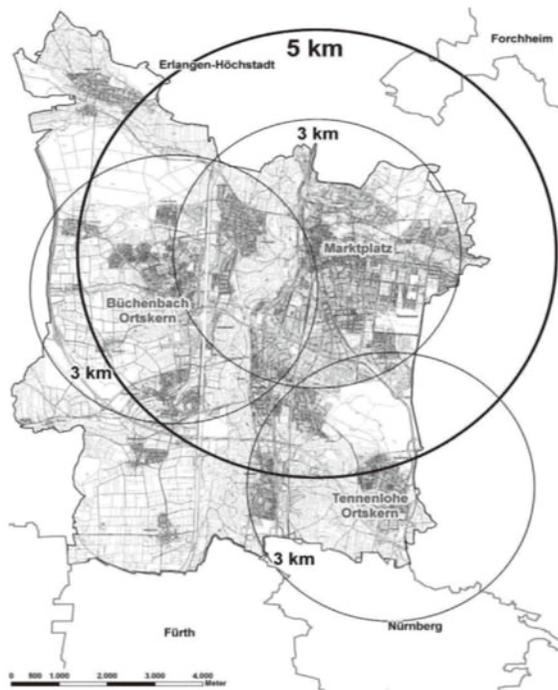


図2 エアランゲン市の「距離感」。自治体全体のおおよその区域が中心市街地（Marktplatz）から5キロ圏内にある。（「AGFK／自転車に優しい自治体のためのワーキンググループ」の資料「Radverkehr in Erlangen」より転載）

## 1-5-2 ドイツにおける「都市」とは何か

都市の厳密な定義は難しいが、「集積性」という共通点がある。例えばマックス・ヴェーバー<sup>9)</sup>やエドワード・グレイザー<sup>10)</sup>などが集積性を都市の特性として示している。ヒト・モノ・カネ・組織・情報・知識といった都市の集積物は相互に影響し合いながら変化し続けるため、都市は「永遠のプロセス」と言える。

密集の状態については「様々な需要と機会が交差する場所」であり、「経済開発や社会的包括、公衆衛生の向上などの可能性をもたらす」。さらに都市内の格差や貧困などの問題があることを指摘しつつ、それぞれが独特の文化・建造物を持っている。これがヨーロッパで、一般的な理解されている都市と位置づけている<sup>11)</sup>。

加えてドイツ語でいう「都市 (シュタット / Stadt)」について整理しておく。これは city, town, 市, 町, 都市などに直訳できるが、ドイツでの Stadt は独自のイメージや意味合いがある。

歴史的には、Stadt は中世のドイツの共同体で市を開く権利などが付された称号であり、「都市法 (Stadtrecht)」と呼ばれる権利を持つ集落だ。しかし、1935年の市法によって都市 / 非都市の法的な違いが廃止され、現在は人口統計によってカテゴライズされている。人口10万人以上が大規模都市 (Großstadt)、人口2万人~10万人が中規模都市 (Mittelstadt)、人口5,000人~2万人が小規模都市 (Kleinstadt) である。

都市の捉え方は歴史的経緯にも影響されており、中心市街地は通常、旧市街地を指す。ここは中世などに作られた都市の発祥地である。日常的には「Stadt へ行く」と言えば、中心市街地へ行くことを指す。そして自治体全体の「軸」となる場所でもある。したがって、本稿での「都市」は文脈によって、基礎自治体全体を指す場合と、市街中心地を指す場合がある。

## 2 空間・時間というストックの分かち合い

本章ではアーカイブ、オープンライブラリー、市街中心地をストック・シェアリングの事例として取り上げる。ストックの種類としては「空間」および「時間」に相当する。

### 2-1 都市の「時間」の情報をストックするアーカイブ

#### 2-1-1 アーカイブとは何か

エアランゲン市には市営のアーカイブがあるが、同市が特別なわけではない。アーカイブの設置・運営は自治体の権利・義務で、ドイツの憲法に相当する基本法第28条の地方自治の権利を間接的に導き出している。そして各州でアーカイブ運営の義務について規則がある<sup>12)</sup>。たとえばバイエルン州

9) M. ヴェーバー 世良晃志郎訳 (1968) 『都市の類型学』, 創文社 p4

10) エドワード・グレイザー, 山形 浩生訳 (2012) 『都市は人類最高の発明である』, NTT出版 p8

11) 欧州委員会地域政策総局 (2009) 『欧州における持続可能な都市開発の促進 これまでの成果と機会』, 欧州委員会 P7

12) Dr. Zink, R. (2009). Archive. Zwischen Geschichtswahrung und digitalen Daten. In D. S.-u. Gemeinbund,

では憲法で自治体アーカイブが義務であることを明記している<sup>13)</sup>。

自治体アーカイブには都市の歴史に関する「第一次資料」を保存し、さらに整理・公開をおこなう機能と役割がある。収蔵物を通じて、都市の生活の記憶、歴史を蓄積し、過去に何があったか、実際どうであったかを解明する材料になる。具体的には過去の文書、レコードやテープなどのメディア、絵図、パンフレット、出版物といったものが収蔵された施設で、同市の場合、収蔵物の書架は6キロメートル分ある<sup>14)</sup>。

アーカイブは自治体の歴史的身份を保証する役割を果たす。また歴史は時代によって評価が変わるが、現代人が歴史を解釈する際、現在の価値観を基にして理解していく。したがって、汚点ともいえる歴史も含めて記録を廃棄せずに残す必要がある<sup>15)</sup>。

それから日本社会からは馴染みがないが、デモクラシーとも関わりがある。アーカイブはコミュニティの文化的な側面を定め、市民がその文化を共有し、地域社会の現実を正確に描写し、公平性と正義を提供する役割があり、それゆえにアーカイブには独立性と信頼性が求められ、アーキビストは事実を歪めないように努め、記録の破棄にはアーキビストの同意が必要だ。これによってアーカイブは透明性、公共性、そしてデモクラシーのための追跡性を確保につながる<sup>16)</sup>。アーカイブは行政の情報公開と連携することで、重要な民主的な要素として存在している。

## 2-1-2 どのように活用されているか？

自治体のアーカイブは収蔵物を保存するだけではなく、分類、整理され、研究のためにアーカイブを利用する人、家族史を書くためにアーカイブから資料を求める人もいる。蓄積された歴史的資料が共有活用されている形だ。これらは個人のみならず、組織的にも活用される。

ドイツの多くの自治体には地域の歴史や郷土のための協会（フェライン）があるが、エアランゲンにも1919年に設立された「エアランゲン郷土・歴史協会（Heimat-und Geschichtsverein Erlangen e.V.）」（会員数約500人<sup>17)</sup>）がある。組織内では「中心市街地」のほか5つの区域別ワーキンググループがある。

またエアランゲン市周辺をさす「フランケン地方」の歴史研究書が毎年出版されるが、同協会は1954年以降、エアランゲン市のパートを毎年担当している。そして1991年以降は市営アーカイブと共同で執筆に取り組んでいる。

さらにドイツの地方では歴史などを扱った「ご当地本」の出版が多い。エアランゲン市内内の書店

---

N. Schumann, & S. Schrimpf, *DStGB Dokumentation Nr. 95 - Archivierung von digitalen Ressourcen im kommunalen Bereich* (S. 6). Deutscher Städte- und Gemeinbund: Berlin. P. 7

13) Gemeindeordnung (GO) für den Freistaat Bayern Art. 57

14) 2023年2月3日 館長のAndreas Jakob博士の聞き取り

15) Bundeskonferenz der Kommunalarchive beim Deutschen Städtetag. (26. 4 2004). Positionspapier Das historische Erbe sichern! Was ist aus kommunaler Sicht Überlieferungsbildung?

16) Scheytt, O. (2002). Die Archive in der Kulturpolitik der Städte. *Kulturpolitische Mitteilungen* Nr. 99, 62

17) 2019年9月9日 メンバーの中心的人物のひとりKlaus Meinetsberger氏からの聞き取り

を見ると、同市や周辺地域に関する書籍が充実しているが、執筆者はアーカイブの資料を使う。また市営ミュージアムでの展示でもアーカイブの資料が活用されることが多い。

それから館長のアンドレアス・ヤコブ博士の存在にも触れておかねばなるまい。まるで都市を歴史から検証・解説するかのような役割を担っている。たとえば歴史的建築物の保護問題が出てきたときなど、頻繁に地元の新聞から取材を受け、経緯やルーツを説明するほか、著述活動も多い。

### 2-2-3 ストック・シェアリングとしてのアーカイブ

都市のアーカイブは市民社会の発展とともに公共性が帯びてきた。より多くの人々や組織に活用されることによって収蔵品の使用価値が高まる。ストック・シェアリングとして整理していくと、蓄積された歴史（時間）を市民や組織が共有活用している構図が描ける。

他方、現行のアーカイブの運営及びアーカイブの活用組織との関係を見ていくと次のようなことが浮かびあがる。

#### 1. 蓄積のための協力もある

アーカイブは一般の市民からの寄付なども受け付けている。すなわち蓄積されたものを共有活用するのみならず、蓄積のための協力も得ている。

#### 2. 蓄積物の保護と管理がなされている

アーカイブの収蔵品は「時間の蓄積」ではあるが、具体的には「モノ」を扱う。裏を返せば経年劣化との戦いがある。ここで適切な保存技術、管理、そして、そのための投資がなければ成り立たない。利用者は使用料金を支払うが、市場の論理で成り立たせるのは難しいだろう。また財政的な裏付けに個人・企業からのスポンサリング、寄付なども考えられるが、永続性の担保を勘案すると、全面的に頼るのも難しい。それだけに自治体のひとつの部署として運営されることは、市場の論理から一旦離れた財源で運営され、それにより永続的な保護の可能性を高めている。

#### 3. 蓄積物の信頼性構築と維持

アーカイブは過去のもののみを扱うわけではない。次々とできてくる「後世に残すべき」ものも収集している。その信頼性は客観性、公平性を重視するアーキビストによるものである。特に行政文書

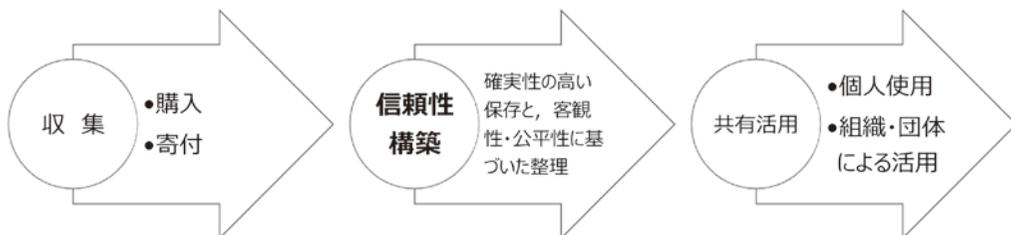


図3 自治体アーカイブに不可欠なのは信頼性の構築にある（作成：高松平蔵）

については、事実の隠蔽や歪曲しようとする圧力にも抵抗すべきという性質をもっている。信頼性がなければ共有しうる蓄積物にはならないともいえるだろう。歴史と政治という、ややもすればセンシティブな関係になりかねない部分にアーカイブはある。

## 2-2 オープンライブラリー

### 2-2-1 オープンライブラリーの概要

エアランゲン市の市街中心地に電話ボックス大の本棚が設置されている。ドイツ語で“Die Offene Bibliothek”（オープンライブラリー）“Öffentliche Bücherregale”（パブリック本棚）といった呼ばれ方をしている。本稿では「オープンライブラリー」で進める。

今日、数多くの都市でオープンライブラリーを目にするが、少なくとも全独で約3300ある。その形状や大きさはまちまちだが、屋外で置くものは、雨や風などで本が破損しないように密閉できる構造のものが作られる。あるいは電話ボックスを再利用したものや、バス停の中に作られるケースもある。本棚には誰でも書籍を無償提供することができ、また同時に誰でも本を取ることができる。その本をそのまま自宅に置いておくのもよいし、返却することも可能だ。また自分が不要になった本を持参し、棚にある本と交換することも可能だ。

オープンライブラリーは文学の交流促進のために1990年代から発展してきたアイデアだ<sup>19)</sup>。1989年にアメリカのニュージャージー州で二人のアーティスト Michael Clegg と Martin Guttman によって実験的に行われたのが発端<sup>20)</sup>。このアイデアは程なくしてヨーロッパにも上陸する。1991年にグラーツ（オーストリア）で初めて作られ、ドイツではハンブルク（1993年）と続く。2014年にはマインツで二人のアーティストが参加型のインスタレーションを考案。コミュニティを定義・形成し、創造的な相互作用を促すことを構想したものだった。このように当初は実験芸術の意味合いが強いものだった。2000年代半ば以降、観光協会や自治体、財団などが設置するケースが増えてくる。

### 2-2-2 エアランゲン市のオープンライブラリー

研究対象のエアランゲン市を見ると、筆者が確認した限りは市内に少なくとも5箇所ある。そのうち一つは個人の庭先に作られたものだ。

本稿のストック・シェアリングの考察対象として見ていくのは、2012年に中心市街地で地元のライオンズクラブによって設置されたものである。同クラブ代表のカールセン・ドェルフラー氏による

---

18) Liste öffentlicher Bücherschränke in Deutschland 2023年7月22日 閲覧 [https://de.wikipedia.org/wiki/Liste\\_%C3%B6ffentlicher\\_B%C3%BCherschr%C3%A4nke\\_in\\_Deutschland](https://de.wikipedia.org/wiki/Liste_%C3%B6ffentlicher_B%C3%BCherschr%C3%A4nke_in_Deutschland)

19) Sträter, E. (6 2012). Tausch das Buch! Erster öffentlicher Bücherschrank in Nürnberg. *Bibliotheksforum Bayern*, 171.

Friede, C. (13. 10 2017). Clegg & Guttman “Die Offene Bibliothek”. Von Kulturport.de: <https://www.kultur-port.de/blog/kulturmanagement/14631-die-offene-bibliothek-clegg-guttman.html> abgerufen

20) Friede, C. (13. 10 2017). Clegg & Guttman “Die Offene Bibliothek”. Von Kulturport.de: <https://www.kultur-port.de/blog/kulturmanagement/14631-die-offene-bibliothek-clegg-guttman.html> abgerufen

表1 ドイツ国内のオープンライブラリーのリスト ウィキペディアより筆者作成<sup>18)</sup>

州	数
バーデン＝ヴュルテンベルク	623
ノルトライン＝ヴェストファーレン	601
ニーダーザクセン	428
バイエルン	324
ヘッセン	284
ハンブルク	173
ラインラント＝プファルツ	171
ザクセン	111
ブランデンブルク	109
シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン	106
ベルリン	85
ザクセン＝アンハルト	85
チューリンゲン	70
メクレンブルク＝フォアポンメルン	48
ザールラント	44
ブレーメン	22
合 計	3284

と、当時、他地域のライオンズクラブが本棚を作ったことを知ったことがきっかけ。半年ほどかかって、インフラ関連の会社などと話し合い進めた。同クラブが市に贈呈する形で、10年間はクラブがメンテナンスをする契約で作られた。クラブでは特に本棚の担当者は置いていないが、3ヶ月から半年ごとにメンバーの誰かがチェックをしているという。メンテナンス契約について延長はなく、現在は市のものになっている。なおガラスのドアに一度ペンキを塗られるいたずら行為があったが、本棚そのものを破壊したり、本以外のものを置かれたことはない<sup>21)</sup>。

ライオンズクラブは年2回、市街中心地でどの本でも1ユーロで買える古本の販売を行ない、長年若者の読書促進に関わってきた。オープンライブラリーもその一環で、教育・文化・社会福祉的な意図で作られたのがわかる。本棚の脇にはベンチも設置され、天気の良い日は座って読書をする人々の姿が見られる。

21) Carlsen Dölfler氏に2023年5月22日に聞き取り

### 2-2-3 都市型のカルチャームーブメント

オープンライブラリーの使われ方には、時には古いパズルやDVDなどが入れられるケースがあり、まるでゴミ処分場所と位置付けられているような行為もある。また、右翼過激派の雑誌や広告が混じることもある<sup>22)</sup>。ある自治体では転売目的で一度に多くの本が持ち出されたと思われる例もある<sup>23)</sup>。

しかし、ほとんどの人はオープンライブラリーを好意的に捉え、楽しんで活用していると考えられる。その解釈はエアランゲンのライオンズクラブ設置の理由のように、「文化」「社会福祉」「環境問題」といったもので、欧州の市民的価値の理解があり、後述する信頼性と公共性の高い市街中心地とよく馴染む。

それから、北米とドイツ（欧州）を比べると違いも見られる。北米では個人的な取り組みとして行われたもので、設置及び維持管理も個人が行なっている<sup>24)</sup>。それに対して、ドイツは公共空間に設置されることが多いと思われる。その多くはエアランゲン市のように、何らかの地域のイニシアティブ・プロジェクトで行われるケースが散見されるほか、すでに多くの自治体にオープンライブラリーが設置されていることから、「それに倣って、我々の自治体でも作るべき」ということが設置理由の一つになっている例もある<sup>25)</sup>。自治体の公共空間におけるスタンダードの装置となりつつあるとも言えるだろう。以上のことから、ドイツの場合、公共空間に置かれた「都市型のカルチャームーブメント (urbane Kultur-Bewegung)」として位置付けられていることもある<sup>26)</sup>。

### 2-2-4 どの経済理論にも当てはまらない

ここで、経済学的な2つの側面「沈黙交易」「贈与」から、オープンライブラリーでおこっていることをどのように捉えることができるかを検討しておきたい。

## 2. 沈黙交易

オープンライブラリーは書籍の「交換」として捉えられる部分もある。これは、ある場所にモノを置いて去ったあと、交易相手がそのモノに満足すると、代わりのものを置いて去るような方法で、互いに直接的な接触をしない形の商品交換「沈黙交易」を彷彿とさせる。これは本質的には信頼ができない相手（異人）と平和的に交換を成立させる原始的な方法だ<sup>27)</sup>。しかし、オープンライブラリーは

22) Johnston, S., & Hörath, M. (30. 12 2022). "Manchmal fühlen wir uns wie die Müllabfuhr". *Erlanger Nachrichten*, p. 29.

23) Clausen, J., & Steudle, L. (2006). *Öffentliche Bücherschränke in Hannover Befragungen von PatInnen und NutzerInnen im Auftrag der Landeshauptstadt Hannover*. Borderstep Institut für Innovation und Nachhaltigkeit. p. 14

24) 同 p. 6

25) Redaktion. (6. 12 2022). *Öffentliche Bücherwand in Bad Steben*. Von Der Neue Wiesentbote Nachrichten für Oberfranken & Umgebung: <https://www.wiesentbote.de/2022/12/06/oeffentliche-buecherwand-in-bad-steben/abgerufen>

26) Mößler, S. (16. 12 2009). Neues Gedächtnis für Erlangen. *Erlanger Nachrichten*, p. 25.

27) 栗本慎一郎。(1979)。経済人類学。東洋経済新報社。を参照

本を通じて他者とのコミュニケーションや接触を忌避する意図は組み込まれておらず、むしろ共同体の中での同じ本を読むという体験の共有や、コミュニケーションの発生を意図されている。その点で沈黙交易とは言えない。

## 2. 贈与

贈与システムとしてのオープンライブラリーを検討する。なぜならプロセスの一部で匿名性の贈与と思われることが起きているからだ。本棚に本を入れる行為がそれである。しかし、贈与とは本来返礼を期待しない行為であるにもかかわらず、「見返りを期待していないかのように」交換するもので、返礼が暗黙のうちに組み込まれている<sup>28)</sup>。確かに本というモノをシェアすることで他者同士の何らかの関係が生まれる可能性がある。しかしオープンライブラリーでは交換をした者同士の顔は見えない、極めて匿名性が高く「返礼の期待」は見出しにくい。

以上の仮説から、オープンライブラリーは現象的に言えば沈黙交易と贈与が部分的に起こっており、既存概念に当てはめにくさがある。ボン大学の家計・消費経済学が専門の教授、ミヒャエル・ブルクハルト・ピオルコフスキー博士がオープンライブラリーを見て、「これは市場だ！しかし、通常のどの経済モデルでもない」<sup>29)</sup>と同僚との会話の中で話したのも頷ける。

ただ本を不特定多数の人とシェアするという点では「ストック・シェアリング」だ「同じ市民的価値」を持っている他者同士が、直接接触することなく、また見返りの期待なき贈与を行うことで成り立っている交換装置と言えるだろう。

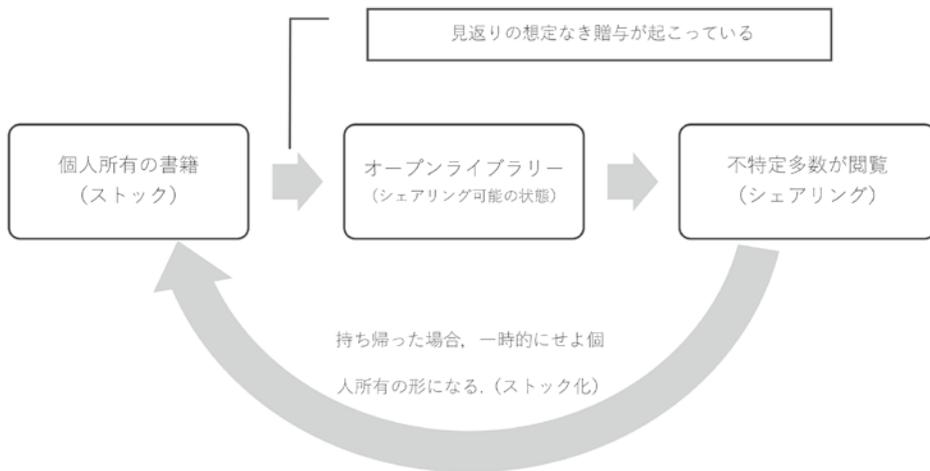


図4 ストック・シェアリングとしてのオープンライブラリーの流通構造2 (筆者作成)

28) 今村仁司。(2016)。交易する人間 (ホモ・コムニカンス) 贈与と交換の人間学。講談社Kindle位置：370/3879

29) Eva Klopp, U. (4 2009). Bonner "Gemeinschaftsmöbel" Studienobjekt: Offener Bücherschrank als soziales System. *forsch*, 29.

## 2-3 空間のシェアリングとしての中心市街地

### 2-3-1 多様で多義的な中心市街地

エアランゲン市は2つの「大規模都市」に隣接している（ニュルンベルク市・人口約53万人、フルルト市・人口約11万人）。



図5 エアランゲン市とその周辺地図（Googlemapより筆者作成）フルルト市，ニュルンベルク市と隣接している。エアランゲン市の境界線は赤の点線。また，赤い丸が同市の中心市街地の位置。



図6 エアランゲン中心市街地のメインストリート（Googlemapより筆者作成）赤い線がメインストリートで実線が歩行者ゾーン。転線は北側が自動車も走れる通常の道路、南側の一部は公共交通車両のみが走行可能。赤い丸は広場。

都市の中で中心市街地は代表的な公共空間だが市庁舎、銀行、オフィス、図書館・劇場などの文化施設、広場など多様な要素が集積しており、そして多義的である。メインストリートは1.2キロメートル程度。そのうち500メートルあまりが歩行者ゾーンになっている。同市統計局による2015年の調査では、中心市街地に60%の人が少なくとも週1回訪問。「ほぼ毎日」と答えた人は19%を数えるが、おそらく通勤・通学、このエリアで働いている人たちであろう。

この歩行者ゾーンも含む市街中心地で起こっていることを整理すると、ショッピングやビジネスなどの「経済活動」をはじめ、「市庁舎への用事」「飲食」「文化・スポーツ・イベント」「社交」「ただ歩く、のんびり過ごす」、さらにはデモや集会、選挙運動なども展開されることから「表現・言論・社会的活動」といったことにまとめることができるだろう。また資本の論理で作られたショッピングモールでは原則的に消費空間であり、比較すると「公共空間」との違いが際立つ。

表2 中心市街地で何が起きているのか（筆者作成）

市街中心地	ショッピングモール	起きていること
○	○	経済活動
○		市庁舎への用事
○	○	飲食
○	△	文化・スポーツ・イベント
○	△	社交
○	△	ただ歩く、のんびり過ごす
○		表現・言論・社会的活動

### 2-3-2 市街地を訪ねる市民とは誰か？

市街地に訪れる市民は多様な人格を持っている。小売店や飲食店を訪れる人は「消費者」、家族や友人と会うために来る「交流する人」、文化を楽しむ「文化の享受者」もいる。また、選挙運動やデモに興味を持つことで「政治的存在」や「表現者・アクティビスト」になることもある。

また、市民は時には複数の人格を持つ「ヒト」である。例えばオープンライブラリーに本を持ち込

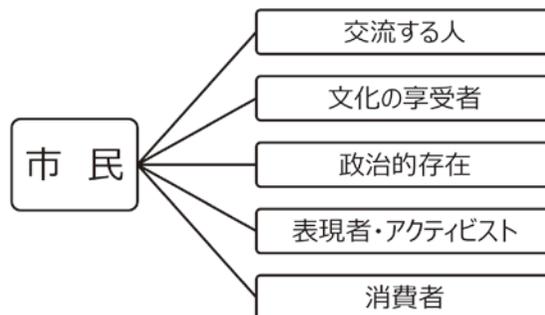


図7 市街中心地にやってくる市民とはどんな存在か？（筆者作成）

む人は「文化（装置である書架の楽しさの）享受者」であり、たまたま隣に居合わせた利用者との会話を楽しむ「交流する人」になることがある。そして、このように他者と知り合うきっかけづくりは「都市らしさ」を高める重要な役割である<sup>30)</sup>。

このように、市街中心地は複数の人格を持つ市民にとっての場となり、多様性を受け入れる空間となっていることが分かる。

### 2-3-3 中心市街地の信頼性

中心市街地の理想は、さまざまな行為、さまざまな人格を受け入れる開かれ信頼性が伴う公共空間たることであるとするならば、次の3つに整理できるだろう。

#### 1. 治安・安全・公衆衛生

治安・安全性の良さはいうまでもない。イベント時のテロ対策なども必要だ。また日常的に女性が一人で歩けるかどうか、といったことが一つの指標となるだろう。

安全性の中には、交通事故のリスクが低いことなどが挙げられる。この観点から言えば自動車を排除した歩行者ゾーンは高いレベルで安全性の確保につながる。

#### 2. 安心感・清潔

次のレベルで必要なのは安心感・清潔であろう。皮膚や頭髪の色、言語が違っていても安心感があり、誰にでも開かれていると言う感覚が持てるかどうか。発する言葉や話題次第で国家権力の介入があるようでは問題外だ。女性が肌の露出が多い着衣でも問題を感じな雰囲気かどうかも一つの指標になるだろう。

他にも野生化した動物がいない、建造物に落書きがない、ゴミが落ちていないといった要素は都市の清潔につながる。

#### 3. 雰囲気の良さ

1と2の条件は公共空間の基本的な信頼性につながっている。その上で都市の独自性を打ち出せる。それが「雰囲気の良さ」の追求である。緑の多さ、歴史的な建築物で成り立つ景観の良さ、芝生・ベンチなど無料でくつろげる場所があるか。この歴史的景観の保護や向上に歴史協会やアーカイブが関わっている。さらに文化プログラムやクリスマス市場などの「特別」な設えも雰囲気の良さにつながる。これこそが、滞在の質であり、都市の「社会の居間」とでもいう空間になる。前述のオープンライブラリーも滞在の質を高める一つの要素である。

### 2-3-4 結論：ストック・シェアリングとしての公共空間

公共空間としての市街中心地は、実践的な要素と観念的な要素が集積して生態的な空間を形成して

---

30) Rossmeissl, Dieter. (2017). Kultur Bildung Stadt. Erlangen: Stadt Erlangen.

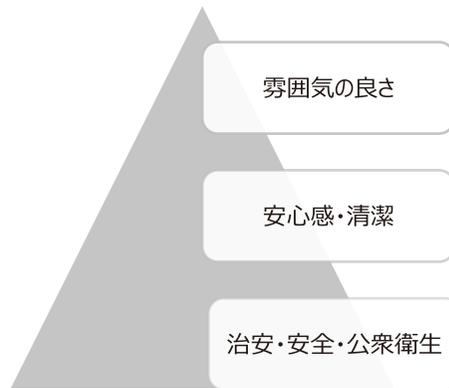


図8 公共空間には何が必要か？これは「滞在の質」の条件とも言える（筆者作成）

いる。これらを「ストック」と考えると、使用価値が高く人々の生活の質に影響する。価値を見る指標は、広場や歩行者ゾーン、文化施設などがどれだけ活用されているかである。ただし、このような蓄積は放置すると劣化する可能性があるため、常に信頼性と滞在の質を向上させ、価値を更新していくことが重要だ。

このストックのケアを行う主体は行政や投資家、そして市民自身である。特にドイツでは「デモクラシー」がストックのケアに重要な役割を果たしていると思われる。なぜなら人々の自主参加こそがデモクラシーの要であるからだ。市街中心地の歴史的な景観は都市のアイデンティティの実感に繋がる可能性がある。また市街地自体が人々のコミュニケーションの場として機能し、未知の他者同士が新たな出会いを持つきっかけにもなる。

### 3 個人のリソースを分かち合う<sup>31)</sup>

#### 3-1 ボランティアに取り組む人は4割以上、楽しいからやる

人的資源が他者や共通善に向けて動いたとき、地域社会を生きたものにし、地域社会の課題や問題に対して積極的に取り組もうという力になる。そういったボランティアの重要性はドイツでも繰り返し強調されている

31) 本章は次の記事、書籍等を主に参照している。

高松平蔵。2018。“ドイツの町のボランティア事情。” 市政 [67] : p. 76-77.

高松平蔵。2016。ドイツの地方都市はなぜクリエイティブなのか 質を高めるメカニズム。学芸出版。

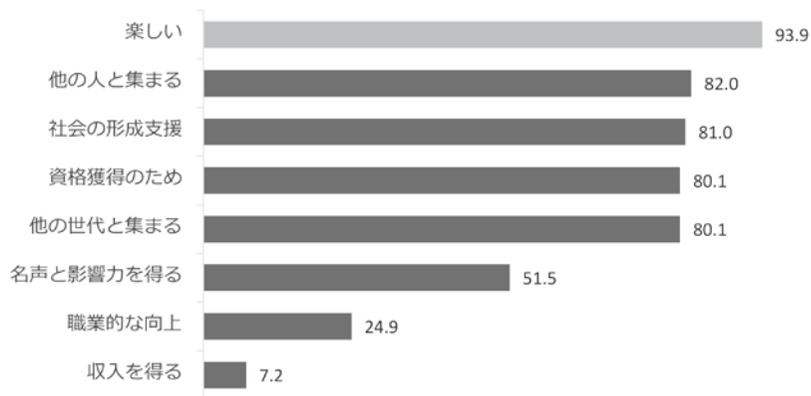
高松平蔵。2020。ドイツのスポーツ都市 健康に暮らせるまちのつくり方。学芸出版。

高松平蔵。2022。“そこまでやるか！ドイツ自治体「難民支援」の凄み。” 東洋経済オンライン。6月9日。  
<https://toyokeizai.net/articles/-/595186>

2019年6月1日 日本NPO学会 第21回年次大会（龍谷大学瀬田学舎）で筆者が行った基調講演「市民社会組織から考える」のための資料

とりわけ金融危機、難民の大量流入、パンデミックなど社会的な不安定要素が大きくなったときに、ボランティアの必要性和重要性が説かれる傾向があるが、実のところ、ボランティアは日常的にかなり多い。連邦家族相が2016年に行った調査によると、14歳以上の43.6%が過去12ヶ月の間に何らかのボランティアを行い、年齢層を見ると、「14歳から64歳まで」が40%以上。つまり、「働き盛りの男女」もボランティアを行っているのがうかがえる。

ここでボランティアの意味について検討しておく。ドイツ語では「自由意志、自発性」(freiwillig)や「名誉職の」(ehrenamtlich)と表される。例えばフェラインのメンバーになるのも、辞めるのも、あくまでも個人の意思で決めるもので、強制性はない。そのせいかボランティアの動機のトップに「楽しいから」と言うものがあがる。(グラフ1参照)

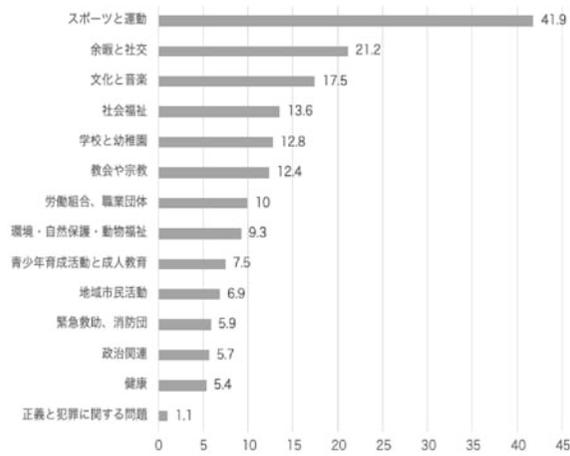


グラフ1 ボランティアをする理由は？単位数% (ドイツ連邦家族相 Freiwilliges Engagement in Deutschland, 2016より筆者作成)

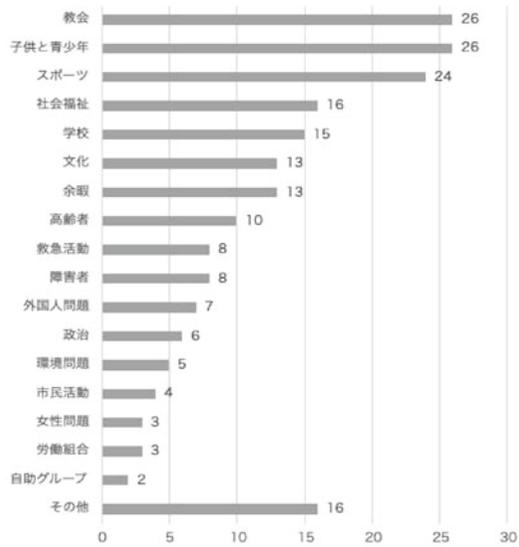
### 3-2 ボランティアの種類

それでは、ドイツの人々はどのようなボランティア活動をしているのであろうか。少し古いですが2009年の連邦スポーツ科学研究所の調査を見ると、分野も幅広い。エアランゲン市の調査を見ても、おおよそ同じような傾向にある。(グラフ2,3,4参照)

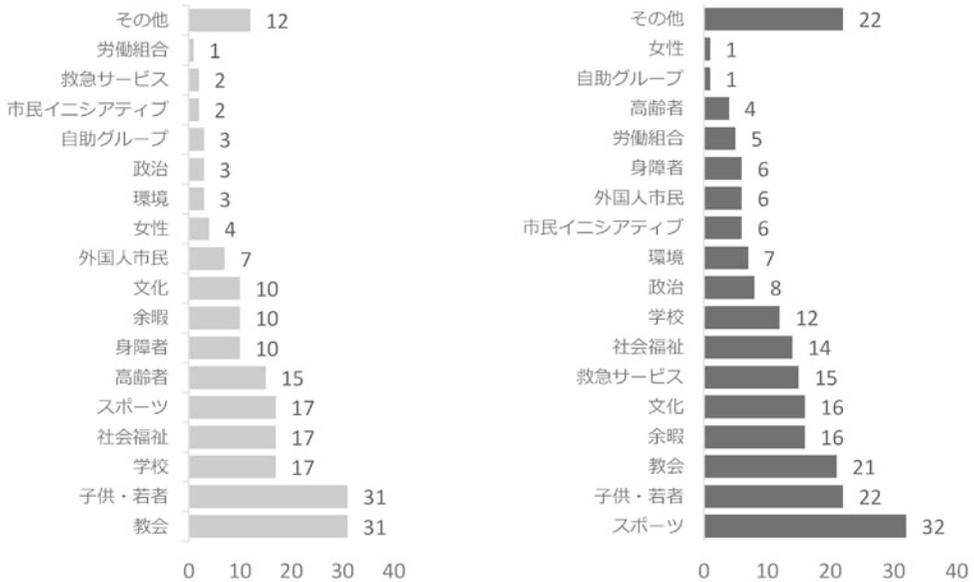
ドイツ地方都市に見る「都市の蓄積」の共有活用



グラフ2 14歳以上のドイツ国民関与のボランティア（2009年） 単位数%（連邦スポーツ科学研究所のスポーツに関するボランティア調査を元に筆者作成）



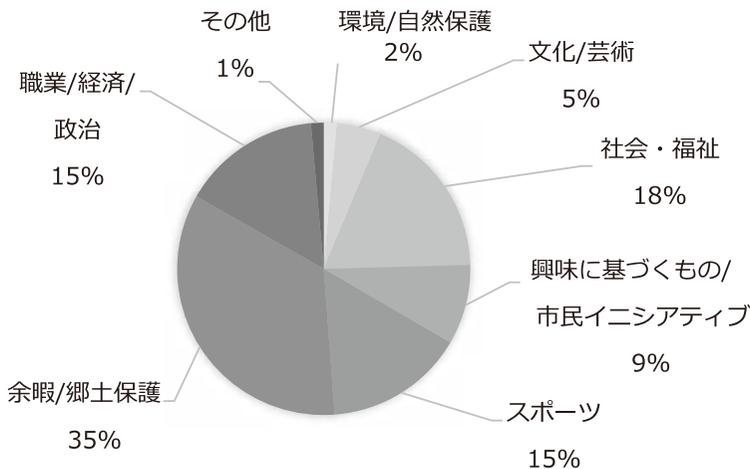
グラフ3 18～80歳のエアランゲン市民が関与しているボランティア単位数%（エアランゲン市2012年の統計資料をもとに筆者作成）



グラフ4 男女別18～80歳のエアランゲン市民関与のボランティア 単位% 左・女性、右・男性 (エアランゲン市2012年の統計資料をもとに筆者作成)

### 3-3 「自由意志」のための環境とは何か

ボランティアの状況を俯瞰したが、ここで重要なのはボランティアのためのプラットフォームがあるということだ。具体的には教会やフェラインである。また学校や幼稚園などもプラットフォームになり得るだろう。とりわけ、フェラインの存在は大きい。ドイツ全国に約60万あり、種類も豊富だ(グ



グラフ5 ドイツのフェラインの分野と割合 2014年 (V & M Service GmbHのウェブサイトをもとに筆者作成)

## ドイツ地方都市に見る「都市の蓄積」の共有活用

ラフ5参照)。しかし、それでいて半分以上のフェラインの年間収入が1万ユーロ以下だ。構造的に見てボランティアなしでは成り立たない。(グラフ6参照)



グラフ6 フェラインの年間の収入 (ユーロ, 割合の単位%) ZiviZ-Survey 2017をもとに筆者作成

一方、絶対的な量と種類の多さは、自分の興味、関心に依じて加入を決める自己決定の選択肢が多いということも指摘できる。エアランゲン市を見てもフェラインは740以上ある。単純に言えば740以上の選択肢があるかたちだ。

加えて、行政自体がフェラインとの協力関係も強い。日本では「協働」という言葉で表現されるが、むしろフェライン抜きでは自治体サービスが維持できない。例えば市が主催する文化フェスティバル、春祭り・秋祭りなどにもフェラインが関わっている。市営アーカイブと深い関わりのある歴史・郷土協会もフェラインである。

他方、ボランティア活動を行う個人に焦点を当てると、職住近接・短時間労働から得られる個人の「可処分時間」の多さがあってのことだろう。(グラフ7参照)



グラフ7 日本・ドイツ年間労働時間の比較 2017年 (単位: 時間, OECDのサイトを元に筆者作成)

ドイツでは統計的に可処分時間が多いが、さらに留意すべきは余暇時間の感覚だ。ドイツ語で「自

由時間（Freizeit／フライツァイト）」と言い、義務や労働から解放され、自由意志で使える時間のことを指す。ドイツ社会では長期の休暇を推奨し、個人はその権利を活用している。ドイツでは可処分時間の一部をボランティアに費やすことが比較的楽にできるという事情がある。

### 3-4 結論：ストック・シェアリングとしての人的資源

自由意志によるボランティア活動は、個人の時間、能力をシェアする行為である。とりわけ訓練（例えばスポーツのトレーナーライセンス）、経験、職能で得た能力は個人が有する「ストック」である。このストックを他者のために、共通善のために共有活用してもらおうという構図がストック・シェアリングとしての人的資源と言えるだろう。また、その前提として、ボランティアを行う人も、ボランティアを受け入れる組織やプロジェクトも一定の「信頼性」「倫理」を備えていることが期待されている。

このようなストック・シェアリングを活発化するには、恒久的なボランティアのプラットフォームが必要であり、他の組織とのパートナーシップも相乗効果を生み出すと考えられる。また個人のための環境として、一定以上の可処分時間があることが望まれる。

## 4 まとめ

エアランゲン市の自治体アーカイブ、オープンライブラリー、公共空間、人的資源をストック・シェアリングとして検討した結果、以下の3点が導き出される。

### 1. ストック・シェアリングにはストックの信頼性が問われる

自治体アーカイブでは、収蔵物について確実性の高い保存と、客観性・公平性に基づいた整理が必要だ。オープンライブラリーは開かれた公共空間で行われる贈与・交換・発見・共有といった一種の遊びのようなものであり、その公共空間の信頼性があってこそ成り立つ。人的資源のストック・シェアリングについてはボランティアを行う人物・プラットフォームに信頼性が求められるのは大前提だ。

### 2. ストック・シェアリングにはケアが必要

信頼性を維持するには絶え間ないケアが必要だ。自治体アーカイブには専門の知識を持った職員（アーキビスト）と、市場経済に左右されない財政的裏付けがあって、活用のためのケア（管理）ができています。オープンライブラリーは棚の状態を適宜管理する必要がある。公共空間では歴史的建築物や美観維持をはじめ、滞在の質のためにすべきケアは膨大にある。その主体は行政や投資家などに加え、公共空間というストックを共有活用する市民も該当する。しかもそれらはしばしば衝突することもある。その解消と妥協点を見つける方法は、公共圏での議論に基づくデモクラシーであり、公共空間がそのための具体的な場所である。

### 3. ストック・シェアリングが結果的にストックの循環が起こる

ストックを共有活用すると、その成果物が再びストックになっていくということが起こる。市営アー

カイクの収蔵物を活用した研究や著述物が、再びアーカイブの収容物になるケースがそうだ。オープンライブラリーは個人所有の本（ストック）を贈与することで、一旦公共性の高い書物になる。本棚はそのための装置だ。そこから本が抜き取られた時シェアリング（共有活用）が起こるが、再びそれが本棚に戻される。公共空間というストックを活用するのは市民だが、市民自体が公共空間のケアをしていく当事者でもあり、ボランティアで成り立っているものが多い。例えば歴史・郷土協会は公共空間としての景観をケアしていく役割の一端を担っている。

都市の質を向上させるためにはどうすべきか、欧州都市を見ると、そのヒントは多数ある。これをストック・シェアリングとして読み替えることで、非欧州型の都市（例えば日本）と比較が可能になり、議論のための新たな問いを立てられる可能性がある。（了）

## b参考文献

- Reulecke, J. (2005). *Geschichte der Urbanisierung in Deutschland*. Frankfurt am Main: Suhrkamp.
- ボッツマン & ロジャース, (2010)。シェアー〈共有〉からビジネスを生み出す新戦略。NHK出版。
- M. ヴェーバー 世良晃志郎訳 (1968)『都市の類型学』, 創文社 p4
- エドワード・グレイザー, 山形 浩生訳 (2012)『都市は人類最高の発明である』, NTT出版
- 欧州委員会地域政策総局 (2009)『欧州における持続可能な都市開発の促進 これまでの成果と機会』, 欧州委員会
- Dr. Zink, R. (2009). Archive. Zwischen Geschichtswahrung und digitalen Daten. In D. S.-u. Gemeinbund, N. Schumann, & S. Schimpf, DStGB Dokumentation Nr. 95 - Archivierung von digitalen Ressourcen im kommunalen Bereich (S. 6). Deutscher Städte- und Gemeinbund: Berlin.
- Clausen, J., & Steudle, L. (2006). Öffentliche Bücherschränke in Hannover Befragungen von PatInnen und NutzerInnen im Auftrag der Landeshauptstadt Hannover. Borderstep Institut für Innovation und Nachhaltigkeit.
- 栗本慎一郎. (1979). 経済人類学. 東洋経済新報社.
- 今村仁司. (2016). 交易する人間 (ホモ・コムニカンス) 贈与と交換の人間学. 講談社
- Eva Klopp, U. (4 2009). Bonner "Gemeinschaftsmöbel" Studienobjekt: Offener Bücherschrank als soziales System. *forsch*, 29
- 高松平蔵. 2016. ドイツの地方都市はなぜクリエイティブなのか 質を高めるメカニズム. 学芸出版.
- 高松平蔵. 2020. ドイツのスポーツ都市 健康に暮らせるまちのつくり方. 学芸出版.